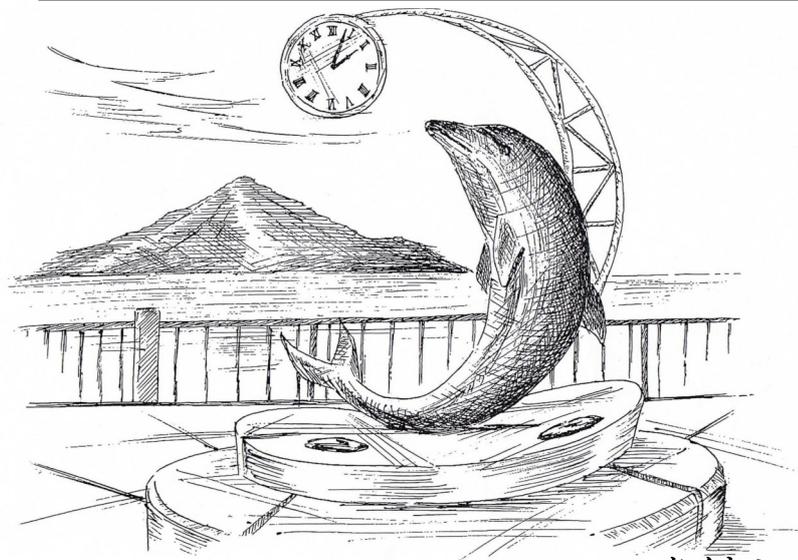


第 372 号

令和2年11月5日発行

- 巻頭言
- 論文
- 文芸
- 特集
- 別寄稿
- さりながら
- 前期中情報
- 全日中札幌大
- 事務局日誌



タイトル 「稚内市ノシャップ岬」  
稚内市立稚内中学校 小林 清一



# 「教える」ということ

北海道中学校長会 副会長 竹森 茂雄

「先生方は授業はしているかもしれないが、生徒に教えてはいないよな」以前、不登校傾向の生徒の保護者が来校し、学校の対応についての話し合いをしている中で、父親から出た言葉である。登校できず、学ぶことができている我が子への思いと、学校への不信感が込められていた。関係機関と連携し、校内体制を整えて対応にあたっていたが、その生徒に適した取組にはなっていないということである。同時に、学校は全ての生徒に「教える」ことができているのか、と学校（教師）のあり方を厳しく問われていると受け止めた。

古書店で、国語科教師として生涯を貫き、数多くの実践指導を重ねた、大村はまの「教えるということ」（共文社）という本を見つけた。50年前の講演記録である。その中で大村は、「あの子どもにどうするかという案をたててそれぞれの指導をすること、それが『教える』ことだと思っんです。子どもたちは専門家たる教師の指導を心から願って、みんな喜んで校門をくぐってきたはずです」続けて、「私は、子どもがかわいければ、子どもをとにかく少しでもよくしていける、教師という職業人としての技術、専門職としての実力をもつことだ、子どもをほんとかわいがる、幸せにする

方法はそのほかにはないんだと思います」と述べている。

大村は個に応じた指導のためには、生徒の数だけの題材が必要であり、そのために、常に新しい指導法を学び、実践し続けなければならないと、職業人としての教師のあり方を厳しく説いている。

コロナウイルス感染症拡大にともない、学校は授業や学校行事などについて、見直しや工夫を余儀なくされている。対面授業という、当たり前と思っていたことも、制限がかかるような非常事態である。そのような中、最重要課題は「学びの保障」である。通知では「子供たち誰一人取り残すことなく、最大限に学びを保障するという観点に立ち・・・」と示され、各教科の内容を全ての生徒が身に付けることができるような対応が求められている。すなわち、全ての生徒に「教える」ことが必要なのである。今まさに、ICT活用を始めとする教育環境整備を積極的に進めることはもちろん、組織の見直しや研修の充実など、課題解決に直結する学校経営の改善に取り組むことが、私たち校長の責務である。

「教師の仕事は何であるか。それは未来を建設する仕事なのだ」（大村はま）

## 【論文】

# 組織マネジメントを生かした学校経営へ向けて

せたな町立北檜山中学校 佐々木 弘司

## 1 はじめに

せたな町は、北海道の南西部、檜山管内の北部に位置し、平成17年9月に旧瀬棚町・旧大成町・旧北檜山町が合併した人口7,600人程の自然豊かな町である。それぞれの町は区として分けられ、本校は開校から計10校が統合し、現在は北檜山区全域の100人の生徒が通学している。

本校のこれまでの取組は少しずつ成果となって表れており、学力や学習習慣が課題であったが、全国学力・学習状況調査においてもここ数年良い結果が出ている。また、体力面においても全国体力・運動能力等調査もここ数年良い結果となっている。

成果が出ているからこそ、更に組織として検証し今後に生かさなければならぬと考える。

## 2 組織の活性化に向けた組織改革を

本校の強みとして、生徒は、素直で生き生きと教育活動に取り組み、少年団活動から部活動への流れや授業改善等により体力が高い数値を示している。また、今までの様々な取組の成果として、学力も向上してきている。学校の強みとしては、若い職員が多く、仕事へのやる気やモチベーションが高いこと。また、仕事の吸収力が高く、ICT等を活用した授業改善力も高いこと。その他に保護者・地域・学校運営協議会・町教委と強力な支援体制の充実があげられる。

一方、本校の課題として、チーム学校としての学校運営委員会や準備委員会的組織がなかったり、分掌や学年の系統性がなかったため、打ち合わせが多かったり、職員会議が長引いていたこと、学校評価によるPDCAサイクルが弱かったことなどがあげられる。職員を考えると、仕事に関して、一生懸命で丁寧だが、若さゆえ手順や軽重の判断とスピードに欠ける部分があった。

そこで、これらの課題解決へ向けた取組として、まず、わかりやすい経営方針（グランドデザイン）を提示した。次に学校運営委員会を発足し、各分掌のリーダーを集め、委員会の必要性や今後の進め方について確認し、新たな議題は学校運営委員会で確認し協議することを進めた。その際に、分掌の統合や整理も行った。そして組織として動くためには学校評価等のPDCAサイクルの充実を確認することとした。

その取組の結果、学校運営委員会で確認・協議され

ることで、職員会議が大幅に短縮され、校長が事前に議題を把握し、経営上必要なものを修正するなど、学校運営がスムーズになった。また、打ち合わせも定期的に行われることで、分掌等での協議が深まり、ミス等が減少し、チームとしての意識の向上とミドルリーダー層の意識や意欲も向上させることができた。学校評価等に関しては、評価を受け、改善の方策を分掌ごとに考え、計画や実施の見直しをすることにより、参画意識が高まった。さらに、学習研究などの分掌が機能するようになり、授業改善と学力向上にも繋げることができた。

## 3 職員の資質向上に向けて

更に強固なチーム学校にするためには、職員一人一人の資質向上が欠かせない。本校は、初任段階の職員が多く、仕事に対してやる気があり丁寧ではあるが、手順や軽重、経験不足から継続指導が不十分であることや、ミドルリーダー層が不足しており、組織的に動くことが難しい面が見られた。そのためチームとして動けずにアドバイスを仰ぐようなトップダウン的状况になっていた。

その状況を解決するために、どんなことを心がけたら良いかという、「職員スタンダード」を提示し、定期的な自己評価の後にアドバイスをすることや学校職員人事評価制度を活用し、人事評価シートへ職員スタンダードとリンクした目標を設定させることで意識化を図った。また、様々な研修を通して教師力や授業力の向上を図り、毎日の授業参観と指導助言をすることとした。

その結果、職員スタンダードを自己評価することや学校職員人事評価制度を活用した目標設定について面談する中で、各自の課題として捉えさせることができた。さらに研修意識や授業力向上への意識向上にも繋げることができた。

## 4 おわりに

今までの取組は、新型コロナウイルスへの対応にも生きた。分掌で対策を吟味し、全体での確認や変更を繰り返す、まさにチームとして難局を乗り越えることができた。これが自信に繋がり、本校の強みとなり、財産にもなった。今後も校長は、常に状況の把握と、的確な判断のもと、職員をチームとして機能させていかなければならぬと考える。

文 芸

## 「不寛容」から「寛容」へ

札幌市立真駒内中学校 横道 幸紀

私は以前、戦前や戦後間もなくの頃に制作された俗に「名作」と呼ばれる映画を好んで鑑賞しました。

そのきっかけとなったのがD・W・グリフィス監督作品の「イントレランス」です。小学生の頃、目にした百科事典の「映画」の項に、恐ろしく巨大なセットの写真が掲載されていました。それは「イントレランス」におけるバビロンの城塞のセットでした。映画撮影のために街一つを作ってしまうようなエネルギーに小学生の私は衝撃を受け、いつか「イントレランス」を見てみたいものだと思ったのです。

実際に「イントレランス」を見たのは、私が4代になってからでした。1916年に公開された作品とは思えぬほどのスケールの大きさとストーリーの複雑さに驚かされたものです。

タイトルである「イントレランス」を和訳すると「不寛容」となります。映画では古代から現代（1916年時点での）に至るまで四つのエピソードが並列的に描かれています。共通しているのは自らの考えや立場に固執し他を排除すること、すなわち「不寛容」が結果的に悲劇を招くという教訓です。

私はこの「イントレランス」で語られた教訓を、映画が公開されてから100年以上が経過した今こそ大切にしたいと感じています。

例えば今年、テレビ番組の出演者がSNS上で誹謗中傷を受け、自らの命を絶つという大変痛ましい事件があ

りました。また、新型コロナウイルスの感染拡大という状況の中、感染者や濃厚接触者、また医療に従事されている方々への心なき中傷なども社会的な問題となっています。このように「不寛容」な行為、言い換えれば「狭量」であり「排他的」と言わざるを得ない行為が後を絶たない状況が生じているのはなぜでしょう。

「自分を愛せない人は、他人を愛することができない」という言葉があります。自己肯定感が希薄な人は、他人の評価に左右され過ぎる傾向がみられます。それが過度になると、自分を認めないものは許せないという「不寛容」な状況に陥ります。その結果、他人を思いやることができなくなり、自ずと攻撃的になってしまいます。特に匿名性の高いSNS上では、その傾向が顕著になります。

私は校長として3年間、教職員と生徒に「相手意識」という言葉を伝え続けています。それは「相手の立場に立って物事を考える」ということです。教職員にとっては生徒や保護者、また生徒にとっては友人や家族が、今何を考えているのか、何を望んでいるのかを、ちょっと立ち止まって考えてみることで「不寛容」から「寛容」な自分に成長できるというメッセージを込めています。もちろん自分自身への戒めでもあります。これからも「相手意識」を大切にしていきたいと考えているところです。

文 芸

## 「挑戦の町の後継者」

下川町立下川中学校 藤弘 のぞみ

今年の猛暑はいったいどうしたことか。北欧のティーンエイジャーが地球環境の悪化について強烈な警鐘を鳴らし大人たちの目を覚まそうとしているのを横目に、ついついエアコンをつけ「健康維持が大事」と自分を納得させる日々が続いた。彼女に対し不勉強や矛盾を指摘するのは簡単だ。しかし、猛暑や豪雨の被害を目の当たりにするにつけ、彼女の怒りが現実の現象と重なり、背筋が寒くなる思いがする。

昨年から道北の下川町に勤務している。着任してすぐに町内を回ったとき、この町が鉱山と林業を基盤として成長してきたことを肌で感じた。鉱山はすでに閉山しているが、林業にかかわる工場・作業場が多く、名実ともに森林の町であることを認識する。

本町は植樹・育林・伐採をトータルに管理した上で、間伐材を燃料とした木質ボイラーによる地域熱供給システムを導入している。吹雪と低温で凍てつく冬でも、小中学校、高齢者施設、公共施設の暖かさは体験した者でなければわからない幸せである。「ジャパンSDGsアワード内閣総理大臣賞」を受賞し、持続可能な社会生活を目指す本町では、町教育行政執行方

針で「森林環境教育」が求められており、本校の教科・領域のカリキュラムではSDGsの指標を示しながら、森林未来都市を継ぐ生徒を育成している。

デンマーク、ドイツ等を中心に、地域熱供給や地域冷房の挑戦が続いている。風力、太陽光、工業排熱などさまざまなエネルギー源を活用しているものの、何十年挑戦しても一地域の試行に過ぎない。下川町にも言えることだが、拡大するにはインフラ整備が欠かせず、費用対効果に課題があるものと想像する。しかし、本校3年生は、こうした課題を中学生らしい感覚で一気に乗り越えた。総合的な学習の時間で町の今後を語ったとき、「数学の得意な〇〇さんと、理科の得意な〇〇さんが大学でより安く効率のよい機械を設計する」「勉強は不得意だが機械いじりが得意な〇〇さんが、その機械を町内工場で作る」「国語が得意な〇〇さんは広報のポップを作る。この町は謙虚で宣伝が苦手だから」「社会が得意な〇〇さんが費用対効果を換算する」……若さはすごい。十年二十年後の下川町が楽しみだ。

## 【特別寄稿】

## 故郷はいつまでも心の応援団

神恵内村魅力創造研究会 事務局長 池本 美紀

私は積丹半島にある神恵内村で生まれ育ちました。

日本海に面して民家が建ち並び、漁業が基幹産業の小さな村です。私は、村から一度も出ることなく進学就職をし、結婚をして現在に至ります。かつて自分が通っていた校舎で今では娘たちが学び、参観日等の折に触れ、変わらない学び舎を見ては、自分が子供だった頃を思い出すと同時に両親の気持ちも想像しています。どんな気持ちで当時の私を見ていたのだろう、と思いを巡らすと心が温かくなります。

思い返すとこの地域に育てられたなあと思うことが多々あります。それは部活動や自然学習など、事あるごとに関わってくださったのは、村の大人たちだったからです。我が子のように話を聞いて応援してくださり、そして注意もしてくれました。子供は親以外の大人に育てられる、という話を聞いたことがあります。それを身をもって感じましたし、とても大切なことだなと思います。

この地域では生徒が少ない分、学校と家庭の関係は密着していると思います。新型コロナウイルス禍で臨時休業になった時、ある教科では、プリントの内容が一人ずつ違うと長女から聞きました。それぞれの苦手分野に合わせて課題が出されていたのです。生徒をよく見てくださるからこそ、こんなにありがたいことはないと思いました。先生たちは生徒に寄り添った学習や生徒指導で、時には友達や家族のように支えてくださっていると感じています。

私は親としてだけでなく、一人の地域の大人としても、子供たちに何ができるかを考えています。私の地域での活動の一つとして、神恵内村魅力創造研究会の活動があります。村の歴史・文化や郷土料理などは、私たちの世代が引き継がなければ、後世に残していくことはできないと思います、あらためて地域の方々に聞き、学びました。郷土料理をイベントで提供したり、盆踊りを復活させたりしています。

進学や就職で子供たちはいずれここから離れて暮らすことがほとんどですが、この村で生まれ育ったことを誇りに思い、一人一人が広報大使として、胸を張って村のことを話せる人間になってほしいです。

神恵内村でもコミュニティ・スクールの活動が始まりました。村で育った私ができることは、学校と地域、そして子供たちの潤滑油になること。郷土を愛する心でこれからも関わっていきたいと思います。

## 校長の出番について

函館市教育委員会 教育長 辻 俊行

「うちの学校ではほとんどの問題が解決してから報告される」「校長は最後の砦であり軽々に登場すべきではない」などと発言される校長がいます（函館にいる、という意味ではありません）。

こうした表現は、教頭を褒める意味で使われることもありますが、その前提には、保護者対応をはじめとした様々な危機に関して、①早い段階で校長への報告があること、②校長として問題点を確実に把握し対応を指示していること、③教頭中心に組織的に対応していること、などがあるものと思われ、決して「校長が知らない間に解決していた」ということではないと考えます。

今般、校長が出番を逸したために事態が悪化し、解決が遅れた事例や解決に導くことができなかった事例が散見される（くどいようですが、函館で、という意味ではありません）ことから、昨今の保護者の傾向や報道の特性などを勘案すると、校長の出番を数ランク下げる必要があると感じています。

過去を振り返って、「あのタイミングで出ていればよかった」と思うことはあるでしょうが、渦中にいて校長の出番がいつ・どこなのかを見極めるのは意外に難しいものです。

校長が出番の判断を見誤る要因には様々なものがあると思いますが、もしもその一つに、「校長は最後の砦」という考え方があるとしたら、それはいかがなものでしょうか。もちろん、校長は学校組織の責任者であり、校内における重要な案件の判断者ではありますが、決して「最後の砦」ではありません。校長をもってしても解決が難しい事例、判断に迷う事例があれば、教育委員会に相談いただきたいのです。相談があれば、教育委員会としては、まずは学校とともに解決を目指すことはもちろん、必要に応じて学校の設置管理者として責任をもって判断します。また、教育委員会がかかわった方が早期解決が促される事例もあるものです。

ほかにも、学校運営協議会で保護者や地域の方々の意見を聞くこともできますし、中学校区内の小・中学校の校長ネットワークで課題を共有することもできます。リーダーは時に孤独なものではありますが、校長先生方におかれては、「自分が最後の砦」という抱え込みや呪縛の中で出番の判断を見誤らないようにしていただきたいものです。



## 8年間の学校経営

恵庭市立柏陽中学校

森岡 理恵

平成25年に教頭として本校に着任し、平成28年に校長として自校採用され5年目となる。通算8年間で、1校で学校運営・経営に携われるということは本当に珍しいことである。管理職の異動は通常2～3年、長くて4年である。8年もいるということは、正に本校のカラーは私の責任の何ものでもない。逆に、短い腰掛けの経営ではなく、マネジメント力が問われ、その課題も成果も見取ることができる。やり甲斐があり重責でもある。

新校長が着任すると、前任校長が作成した経営を元に1年を過ごす。当然、PDCAはスピード感を持って取り組んでいる学校がほとんどであるが、経営の根幹を変えることはない。そして次年度に向けて経営構想を示すが、早いと翌々年度に異動となり、道半ばで次の校長に託すことになる。これを繰り返していると教員にとっても先の見通しを持って腰を据えた教育活動ができづらくなる。本州においては、10年同じ学校に勤務する校長も珍しくない。長く勤務することが良いことなのかは定かではないが、校長として自分が描く学校像に近づけるためには4・5年の継続はあってもいいのではないだろうか。

地域とも、人間関係の構築ができたかと思ったりまた校長が代わった。「先生方は風のように来たかと思ったり去って行く」とよく言われる。そうなることが本当に「社会に開かれた教育課程」、「地域とともにある学校」を創っていくことができるのだろうか。本校8年目を迎え、来年退職であるため、9年間1校で終わりそうである。地域の方々とも阿吽の呼吸で教育活動ができていた今、本当にこの地域に根ざすことができている今、本当にこの地域に根ざすことができている。幸せだと思っている。

実は、校長になってからの5年間で、2年目に大病を背負うことになった。そこから5回の手術と入院を繰り返しながら現在も勤務できている。この病気のせいもあり異動を配慮していただけたと思っている。何より、治療しながら働けているのは、周りの方々のおかげである。学校の教職員はもちろんのこと、一番支えてくれたのは管内の校長先生方である。同じ立場なだけに、励ましの声は心に響く。そして、負担にならないようにと業務を配慮していただいたりと、感謝しかない。チーム学校はもちろんだが、石狩のチーム校長も素晴らしい。後は、校長先生方の健康を願うばかりである。



## 日常授業研鑽

斜里町立知床ウトロ学校 小野寺 哲浩

1年に数回良い授業をただで子供は育つものではない。未来を切り拓く力はそう簡単には高まらない。「この先生の授業であれば」「あの先生の授業を、ぜひわが子に」と、子供や地域の皆様が心底思い、信頼され、質の高い学びが1年間連続することが大切である。全ての教師は「深い学びを目指した授業デザイン」を様々な角度から自分なりの迫り方で模索し実現させている。『子供の成長した姿』を全ての軸として授業を検証し、明日の授業に向かっていく熱意こそが大切である。自校の職員共々、検証改善サイクルの中で教科指導の質を高めていきたい。

わが校長室に「教学半」の書がある。北海道教育大学名誉教授 赤石蘭邦先生直筆の書である。『教えるは学ぶの半ばなり』は、教師自身が日々学び精進することを示唆し、公教育を担う私たちが子供たちを未来へ導く立場を日々自省させる。それは、教える側と教えられる側にとどまらず、両者にかかわる家族、地域の皆様の全てにあてはまる。刻々と変化する現代社会においては、教師自身が社会の変化や要請を敏感に感じ取り、変化に

対応する教師集団としてそれに応じた教育を模索することが求められている。

本校では、オープン・イノベーションによる地域参加型公開研究会を開催している。地域の皆様に授業参観と研究協議に参加していただいた。保護者、地域の皆様は、子供たちの教育に常に真剣である。地域の方からは、研究の核心に迫る質疑をいただくことができた。今後もこの取組を継続・拡大させ、子供たちの人格形成のために、協働の輪を広げる第一歩として礎を築いていきたい。今は、社会に開かれた教育課程創生期である。社会に開かれた教育課程の原点は、教育課程の目標と内容を地域と共有し、理想の子供像に向かって共感・協働することにある。とりわけ、教育課程の中核である教科研究の公開は、研究実践に対する地域の理解が深まり、職員の指導力向上によって授業改善を加速させる。

いつの時代でも「教師にとって授業は生命線」である。今後も地域の持続的発展に寄与する教育活動を展開していくためにもオープン・イノベーションによって実施責任、説明責任、結果責任を果たしていかなければならない。

# 前期情報

北海道中学校長会 事務局長 木村 佳子

## ○諸会議の中止（書面開催）と第62回北海道中学校長会研究大会函館大会中止

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が心配される状況からのスタートとなりました。北海道は全国に先駆けて知事による緊急事態宣言が出され、新年度すぐに休業措置と不要不急の外出制限措置がとられました。これを受けて、4月～5月の道中関連の会議は全て中止（一部書面開催）となりました。

そして、苦渋の決断でしたが、第62回北海道中学校長会函館大会の開催を断念しました。大会は中止となりましたが研究の灯は消さないという気概をもって、現在研究紀要を作成しています。これまで佐竹実行委員長を中心に準備を重ねてきた函館市中学校長会の皆様に、心から感謝申し上げます。

## ○臨時理事研修会に向けたアンケートの実施

第93回総会・研修会も書面開催と書面による決議となりました。その中で、新型コロナウイルス感染症に関わる道中としてのリーダーシップや情報共有を求める御意見をいただきました。そこで、5月12日付で全道にアンケートを実施しました。

アンケート結果については、7月11日に行われた臨時理事研修会で報告し、ホームページにも掲載しています。アンケートからは、各地区校長会と関係機関が連携して情報共有と各種対応に努めたことやICT環境の格差の状況、学校への情報提供のあり方等、道内の各地区の現

状と課題が明らかになりました。

また、7月7日には道小・道中の会長と事務局長が道教委を訪れ、小玉教育長をはじめ幹部の方々にもアンケート結果をお渡ししました。

## ○道教委・道小・道中・道教テレビ会議の開催

道教委との文教施策懇談会・各課懇談会はオリンピックの開催に伴い日程をずらすことを検討していましたが、新型コロナウイルスの状況から中止となりました。しかし、校長会の率直な声を聞く場として、道教委からTV会議の開催が提案され、8月11日に道教委と道小・道中・道教によるTV会議が開催されました。

1時間という限られた時間ではありましたが、道庁別館と全道各局をつなぎ、小玉教育長や幹部の方々とは52名の道小・道中・道教参加者が意見交換をしました。参加者からは新型コロナウイルス感染症に関わる様々な意見が出され、道教委担当者からも回答をいただきました。内容については「道小情報・道中だより号外」にてお知らせいたしますので、ご一読ください。

## ○地区別教育経営研究会

今年度は、通常開催は日高地区（8月4日）、短縮開催が留萌地区（9月28日）、石狩地区（10月6日）、札幌市（中）地区（11月18日）、紙上開催が札幌（小）地区（10月19日）となり、他の地区は全て中止となりました。このような状況下において工夫して教育経営研究会を行った地区に、改めまして敬意を表したいと思います。

## 受賞おめでとうございます

北海道中学校長会3名の校長先生が令和2年度北海道教育功績者表彰を受賞されました。

☆佐竹 聡 校長（函館市立巴中学校）

☆秋保 和久 校長（釧路市立幣舞中学校）

☆武山 昇 校長（釧路町立富原中学校）



## 第73回 全日本中学校長会研究協議会 北海道(札幌)大会

令和2年9月24日の第3回理事研修会において実施概要について協議を行い主題、シンボルマークなどが承認されました。

大地に集い、今までの研究、これからの創造を紡いで、新しいこの先の日本を形成していく中学校教育を進めていきたい。

### イランカラプテ

アイヌ語で「こんにちは」の意味で、「ようこそ」という想いを込めている。ウポポイ国立アイヌ博物館が開業し、アイヌ文化について全国の皆様に知っていただきたい。

### 北の大地から

オール北海道で開催する大会であり、大会主題の「切り拓く」という力強さ・逞しさを表現した。

### 新たな学びを紡ぎ

今後ますます高度に複雑化していくであろう日本の未来社会において、子供たちが自己肯定感に裏打ちされ、主体的、能動的に学びに向かうとともに、目的を共有し対等の立場で他者と協力しながら、よりよい社会を形成していく日本人を育てることが出来る学びの実現を表現した。

### その先へ

大会主題の根底に流れる“未来志向”を表す言葉。

### 1. 期日

令和4年10月 19日(水) 20日(木) 21日(金)

### 2. 会場

札幌コンベンションセンター

### 3. 研究協議会主題

新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成して

いく日本人を育てる中学校教育

### 4. 大会スローガン

イランカラプテ 北の大地から

新たな学びを紡ぎ その先へ

予測困難な時代にあっても教育に対する希望の灯はけっして消えることはない。イランカラプテ。ようこそ北海道の地へ。たくましい開拓者の心息づく、この北の

道中事務局日誌

令和2年6月12日～10月31日

月	日	曜	業 務 内 容	時刻	場 所
6	13	土	北海道PTA連合会令和元年度第10回役員会, 令和2年度役員予定者会(小川, 加藤)	13:00	ホールスター札幌
	18	木	北海道教育の日総会(越田)(書面会議)		
7	20	土	令和2年度北海道学校保健会第1回評議員会(木村)(書面開催)		
	23	火	第4回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)←7/2からスライド NIE全国大会札幌大会実行委員会設立総会(鎌田)	10:30 14:00	ばらと北一条ビル 北海道新聞社
7	24	水	第1回公益財団法人北海道高等学校奨学会評議員会(黒川)(書面開催)		
	25	木	教職員共済生活協同組合北海道支部 2020年度第1回幹事会(河村)	16:00	北海道教育会館
	29	月	北海道公立学校教職員互助会第2回理事会(三浦利)	13:30	損保ジャパン札幌ビル
	6	月	北海道学校保健会第2回理事会(木村)(書面開催)		
	7	火	道教委教育長表敬訪問(鎌田, 木村)	11:00	道庁別館
	8	水	北海道学校給食研究協議会理事会定期評議会(山田)(書面開催)		
	11	土	臨時副会長研修会(五役, 副会長, 専任職員) 臨時専門部研修会(五役, 副会長, 運営委員, 地区理事, 幹事, 専任職員) 臨時理事研修会(五役, 副会長, 運営委員, 地区理事, 幹事, 専任職員)	12:30 13:00 14:00	ホテルライフオート札幌 ホテルライフオート札幌 ホテルライフオート札幌
	14	火	北海道学校給食研究広報編集委員会(山田)(書面開催)		
	17	金	第6回小中合同研修会(五役) 令和2年度「小中合同事務局研修会・学習会」(五役, 幹事, 専任職員)	12:30 13:30	ホテルライフオート札幌 ホテルライフオート札幌
	21	火	北海道教育委員会学校教育局生徒指導・安全課 自殺防止についての説明(鎌田, 木村)	9:30	札幌市立中央中学校
8	22	水	令和2年度 臨時常任理事会Web(鎌田) 全日中 文部科学省・パラリンピック研修会 和歌山大会意見交換会Web(鎌田, 木村, 和田, 竹森, 専任職員) 北海道高等学校奨学会令和2年度第1回奨学生選考委員会(佐藤)	13:30 15:00 13:30	岩見沢市立北村中学校 北村中学校・札幌市立中央中学校・事務所 札幌ガーデンパレス
	28	火	令和2年度第1回北海道学校保健審議会(三浦利)(書面開催) 北海道学校給食研究協議会学校部会総会研修会(山田)	15:00	ホテルライフオート札幌
	29	水	北海道高等学校奨学会理事会(笹川)	13:30	札幌ガーデンパレス
	3	月	公立高等学校入学者選抜改善の検討に係る懇談会(木村, 三浦利)	10:30	道庁別館
	4	火	日高地区別教育経営研究会(鎌田, 山田)	9:55	新冠町 レ・コード館
	5	水	北海道男女平等参画審議会(越田)	14:30	北海道第二水産ビル
	7	金	第1回 北海道地域学校協働活動推進会議兼コミュニティ・スクール連絡協議会:テレビ会議(小川)	10:00	
	11	火	令和2年度 新型コロナウイルス感染症に関する道教委・道小・道中・道公教テレビ会議 同上(鎌田, 木村, 三浦利, 黒川, 三浦崇, 佐藤, 笹川) 同上(宮澤, 竹森, 喜多, 二本柳, 井村, 伊藤, 山田, 立花, 神成, 垣内)	15:30	道庁別館 各振興局
	18	火	北海道中学校体育連盟臨時副会長会(和田)(書面開催)		
	19	木	第4回北海道教育推進会議(鎌田)	14:00	第2水産ビル
9	21	金	全日中緊急対策本部会議Web(鎌田) 全日中副会長会Web(鎌田) 北海道中学校体育連盟臨時常任理事会(和田)(書面開催)	10:00 11:00	岩見沢市立北村中学校 岩見沢市立北村中学校
	25	火	第7回小中合同研修会(五役)	9:30	ホテルライフオート札幌
	26	水	令和2年度第1回北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議幹事会(河村) みんなの教育委員会意見交換会Web(鎌田)	14:00 14:30	かでの2・7 岩見沢市立北村中学校
	28	金	第5回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員) 道P連 三行詩コンクール審査会(加藤)	10:30 14:00	ばらと北一条ビル STV時計台通ビル
	4	金	北海道青少年育成大会(井畑)	10:00	かでの2・7
	5	土	北海道PTA連合会 第2回役員会・正副委員長会(加藤)	13:00	ホテルホールスター札幌
	15	火	北海道公立学校教職員互助会第2回理事会(三浦利)(書面開催)		
	16	水	北海道教育委員会学校教育局高校教育課説明(公立高校入試改善検討について)(木村)	9:15	札幌市立中央中学校
	23	水	Zoom事前チェック(木村, 黒川, 海野他関係者) 道小情報・道中だより号外持参・御礼(山田) 「北海道教育の日」第2回幹事会(越田)	14:00 11:45 15:00	札幌中央中, 小樽松ヶ枝中, 北斗上磯中 道庁別館 ホテルライフオート札幌
	24	木	第3回理事研修会(Web・Zoom)(五役, 副会長, 地区理事, 事務局, 専任職員) 北海道教育大学教職大学院教育課程連携協議会(三浦英)	14:15 10:00	札幌中央中, 各学校 北海道教育大学札幌駅前サテライト
10	28	月	留萌地区地区別教育経営研究会(井村)	10:00	羽幌町中央公民館
	2	金	北海道中学校体育連盟副会長会(和田)(書面開催)		
	6	火	第1回北海道教員育成協議会(三浦利) 石狩地区教育経営研究会(佐藤) 教育公務員共済会北海道支部研究論文審査委員会(鎌田, 吉本)	10:00 15:00 14:00	第2水産ビル 石狩教育研修センター ホテルライフオート札幌
	8	木	第6回事務局研修会(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	ばらと北一条ビル
	12	月	全日中第3回副会長連絡会Web(鎌田)	10:00	岩見沢市立北村中学校
	15	木	第8回小中合同研修会(五役)	10:00	道小事務所
	16	金	北海道中学校体育連盟常任理事会(和田)(書面開催)		
	17	土	北海道PTA連合会 第3回役員会・道教委との懇談会(加藤)	10:00	ホテルホールスター札幌
	19	月	令和2年度北海道「はじめ問題」対策連絡協議会(井村) 五役研修会Web(五役, 専任職員) 夜間中学に関する協議会(黒川)	14:30 15:00 10:30	第二水産ビル 各学校, 事務所 道庁別館
	21	水	全日中第2回常任理事会Web(鎌田) 全日中第2回理事会(鎌田, 木村, 和田, 竹森)	10:00 13:00	岩見沢市立北村中学校 各中学校
10	22	木	第2回学校における働き方改革促進会議(鎌田)	13:30	第二水産ビル
	24	土	令和2年度北海道青少年科学技術振興作品展審査会(加藤)	9:00	札幌市立澄川小学校
	28	水	道教委教職員課より説明(木村)	9:30	札幌市立中央中学校
	29	木	五役研修会(五役, 専任職員) 教職員共済生活協同組合北海道支部 2020年度第2回幹事会(河村)	10:30 16:00	道中事務所 北海道教育会館
	30	金	全日中三田村会長来道訪問(鎌田, 越田, 三浦利, 黒川, 山田) 北海道教育の日制定記念行事(吉本)	10:15 15:00	千歳中学校 ホテルライフオート札幌